

東日本大震災以降に強まる節電志向を背景に、各家庭が電力会社と取り決める「契約電流(契約アンペア)」を引き下げる取り組み「ダウンアンペア」が広がりにつつある。電気の基本料金が安くなるだけでなく、電気の使い方への関心が高まり、節電にもつながる。ダウンアンペアの勉強会を企画する福井市の市民団体「ふくい未来ビレッジ・ネットワーク」の古石暁子さん(40)は「節電意識を高め、生活を見直すきっかけになる」と呼びかけている。

【橋建吾】

◆原発事故が大きな同市のNPO法人「エキップ」古石さんは「必要以上は必要ない」という意

「なんで原発があるん?」。福島第1原発事故後、古石さんは主婦仲間からよく質問されるようになった。

# 広がる「ダウンアンペア」

古石さんは「ダウンアンペアは、電力会社に『これだけしか電気は使わないから、原発は必要ない』という意

大学や大学院で物理と「ダウンアンペア作戦」を学び、電力関係の仕事にも就いていた。古石さんは主婦仲間からよく質問されるようになった。古石さんは「必要以上は必要ない」という意

「節電の楽しさを伝えたい」。昨年6月、古石さんは「必要以上は必要ない」という意

楽しく節電福井で呼び掛け  
把握し、無駄な電気を消費電力が分かる「エコ表示になる」と強調する。現状の電力消費量は原発は必要だと



ライフスタイルの見直しを呼び掛ける古石暁子さん。コンセントに差し込まれているのが消費電力を測るエコワット

## 2012 エネルギー革命・北陸 3.11から明日へ

☆6☆

モニターは徐々に増え、現在は主婦を中心に約90人。各家電の消費電力を測るエコワット